



世界に広がる“からし種運動”のネットワーク「声なき者の友」の輪  
ニュースレターVol. 49 (2023年6月発行)

### ＊＊38年間のエチオピアとの関わりを振り返る＊＊＊

私が最初にエチオピアと関わりを持ったのは1985年のことです。約3000年続いた皇帝制度が革命によって倒され共産政権が誕生。導入した「計画農業」は、周期的にエチオピアを襲う飢饉に対応できず100万人が餓死するという悲惨な状態がエチオピアを襲っていました。その際、国際社会に対して出された援助要請に応じて、私たちも緊急援助活動に乗り出しのです。日本国際飢餓対策機構を創立して間もない時期、共産政権誕生に伴いエチオピアを追放されていた宣教師たちが共に働いてくれたことは大きな助けでした。言語・生活習慣を熟知していた彼らは、まさに神が送ってくださった天使のような存在でした。

緊急援助活動のために派遣した楠原が帰国後、日本の私たちはエチオピアの自立に協力する働きへ方向を転換し、米国が力を入れて大規模に支援した北部ゴンダール州を離れ、南部ショア州・アメヤ村（イスラムが支配していた）において自立開発支援に協力させてもらうことを決定。当初は村人全員が餓死を覚悟した絶望的な状態にあったアメヤ村でしたが、佐々木（農業）・野田（獣医）・森田（農業）などのスタッフが現地に住み込み、15年にわたって農村の総合開発のために村人と緊密な関係を築いていきました。

イスラムの宿命論（自分たちが犯してきた罪・咎のせいで自分たちは呪われ、三年間も干ばつに襲われた）に支配され希望を失っていた村でしたが、見事に自立を達成し、私たちが手を引いた後もその歩みを確固たるものにしていきました。撤退五年後に私がこの村を訪問した際に、村人たちの生き方が一変している姿に感動させられました。自分たちは愛の神によって罪・咎を赦され、「神のかたち」に造られている自分には「価値」がある、自分の人生には「意味」があると確信し、自分たちの未来を切り開いていく希望に満ちて歩んでおられたからです。村には35のキリスト教会が誕生し、人々が「希望」に生きている姿を見せていただいていることは感謝に堪えません。

以来、エチオピアは飛躍的な発展を遂げ、2019年までは毎年8%を超える経済成長を続けるまでになりました。65歳以上はわずか2.8%、希望に溢れる若者たちの国です。80以上の多民族国家、民族間の融和、経済格差・教育格差など多くの課題を抱えていますが、海外から送り込まれた人材に依存する体質から脱却しつつあります。現在求められていることは、自分の国の将来を考えることのできる現地で育てられてきた若者たちと連携し、彼らを支えることです。

現在、湯本が取り組んでいる「おもてなし接客サービス指導」や「コーヒ豆の販売」はエチオピアの今後を担う若者たちと、ビジネスを通してこの国と関わるという新しい形の関わりです。「助ける／助けられる」という関係から、相互に学び合い、それぞれの足元の隣人愛の取り組みを励まし合うというつながり方への移行は、20世紀の南北問題から、21世紀のグローバルサウスとの連帯へと課題がシフトしたことに対応しています。これは資本力のないFVIのような小さな群れだからこそできている働きです。このような働きをご理解くださる支援者の皆様のお祈り、ご支援に心より感謝します。（神田）

## ウクライナ戦禍の中の「隣人愛支援」報告

6月初め、ウクライナが領土回復のための大規模な反転攻勢を始めると言われるさ中、南部のダムが破壊され、多くの集落が洪水に見舞われ、畑は水没したことを痛ましい映像（写真右）で知らされました。「声なき者の友」の輪が協力を続けるキーウ・ユダヤ人メシニック集会のその週末の礼拝では、多くのメンバーがボランティアとして助けに行きたくても、戦場に近くて行けないことに罪悪感を覚えるという訴えが多く寄せられていると伝えました。ボリス師らは、この災害を37年前のチェルノブイリの原発災害に重ね、準備して待つことの大切さを語り、洪水の収束に時間がかかる場合、「国内避難民」として



出てくる人々が必ずいるので、キーウで備えて待つことが「隣人愛」なのだと語りました。また「これほどの災害が起きているのに自分には何もできない」という偽りの罪悪感と負の感情に捉えられることなく、これからできる「隣人愛支援」に励んでいこうと人々を励ましています。

集会では今年すでに、自宅に戻れずに長期の避難生活を余儀なくされる「国内

避難民」の人々を対象に、具体的に希望を見出すためのクラスを開催し（写真上）、心のケアをしながら必需品や食品を配布しています。また、多感な幼少期に戦争の不条理に出会った子どもたちのサポートも定期的に行ってきました（写真右）。このように今、置かれている場で行える「隣人愛」があるのです。ウクライナの人々は破壊される映像、時には現場を日々目にしなければならず、偽りの負の考えから抜け出せなくなりやすい戦時下の当事者であることに心を寄せながら、私たち日本にいる者は、彼らが心身ともに守られるように祈りを継続し、私たちがここからできることに携わっていきたくて思っています。（柳沢）



### その他の活動（2023年3～5月）

東京武蔵野福音自由教会（武蔵野市）、南浦和バプテスト教会（さいたま市）、成瀬教会（町田市）、ジーザスファミリーチャーチ（町田市）、万座温泉ホテル・日進館カルチャー講演会・チャペルタイム（嬬恋村）、川口中央福音自由教会（川口市）、聖望キリスト教会（市川市）、練馬グレースチャペル（練馬区）などでFVIカタリストが奉仕させていただきました（順不同）。

### 働きの支援、会費支払いのための送金方法

- ① 郵便振替： 口座名：「FVI」 口座番号：00180-0-300201
- ② ゆうちょ銀行、三菱東京UFJ銀行の口座もご利用いただけます。お問い合わせください。

\*このレターは、希望された方に郵送させていただいています。送付先の変更、差し止めなどは、事務局にお知らせください。

\*国内のカタリストを支援する場合、カタリスト名を、海外の活動を応援する場合、国名などを通信欄にご明記ください。

●「声なき者の友」の輪 事務局 email:info@karashi.net 090-3036-2776（神田）